

宇宙科学コミュニティのみなさんへ

副所長を拝命するにあたり、私が大事と思うスピリットを共有いたします。

- ① 実行を伴う挑戦を重んじよう。「やってみなはれ」精神で。
- ② いい失敗をしよう。それはギリギリの成功よりも難しい道。一段深い真剣味と遊び心が必要。
- ③ 楽しく創造しよう。宇宙科学にしかめっ面は似合わない。

近年、様々な外的要因から宇宙科学ミッションの頻度は落ちています。その中で、私たち宇宙科学コミュニティは創意工夫と切磋琢磨により、世界に伍する（ときには世界を凌駕する！）宇宙科学成果を創出し続けてきました。その点は自負してよいと思います。この成果を、人材育成／研究力強化→技術進化→一級科学成果創出→一級人材輩出／産業発展 といった正のスパイラルに転化する努力をし続けることが、宇宙科学の社会的使命だと考えます。そのためには、飛翔実験の頻度が重要であろうし、挑戦を奨励し良い失敗を許容する技術風土も必要でしょう。

また、個々の研究者にとって、一つのミッションに一生をかけるやり方は現代風ではないでしょう。宇宙科学には、未踏の世界を探究し人類の叡智を広げていく無限の魅力があります。その魅力が、次々と行われる宇宙科学ミッション群の中で、個々人の科学スキルやアカデミックキャリアの向上と絶えず連動していくやり方を、皆さんと模索していきたいと思います。

宇宙科学は未来の人類の叡智に直接かかわります。その人類の未来がしかめっ面で満たされるようなことにならないためにも、宇宙科学を担う私たちとしては、楽しく（楽しそうに？）この仕事に取り組んでいきましょう！

産業界の皆さんへ

私たちは一級科学を追究し、一級技術への挑戦をし続けます。その中で、魅力的な目標を創り、高度な科学技術人材の育成し、研究開発の現場を提供し続けます。産業界の皆様はそのための共創パートナーです。我が国においても宇宙開発分野の活動が広がり、様々な民間ビジネスが生まれてきている現状において、宇宙科学ミッションも、もはやアカデミアが発案し、産業界が具現化するという一方通行のやり方は古くなりつつあります。最高の技術は企業に在ります。宇宙科学ミッションという技術統合の場が、産業界にとっても最高の技術を発揮できる場となることを願っています。

さいごに、個人的な心象風景になりますが、私自身がこの世界に飛び込み最初に経験したのが、宇宙科学研究所が運用する大気球、そして観測ロケットでした。宇宙への入り口がこんなに近いとは！と興奮したものです。その経験に育てられ、M-V ロケットの開発、はやぶさ・はやぶさ2 ミッション参画へと繋がりました。これは個人の一例に過ぎませんが、このようなワクワクと挑戦が絶え間なく生まれ続ける場を大切に維持し、一定の予見性を持って発展していくことに貢献したいと思います。そのために皆様のお力添えをいただけますと幸いです。

宇宙科学研究所 副所長
津田雄一